

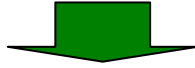
## 目 次

◆提言の要約	1
1.はじめに	2
2.行政評価とは	2
3.行政評価に対する立案メンバーの“モヤモヤ”	3
4.アンケートから見える問題点の検証	3
(1)アンケートの基本部分	3
(2)行政評価の目的と効果に関する問題	4
(3)職員の意識の問題	6
(4)行政評価の活用の問題	8
5.提言	9

## 提言の要約

### 現状

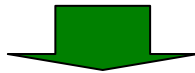
- 行政評価は全国の自治体において導入が進んでいる。
- 評価事務に対する不満の声が聞かれるようになってきた。
- 平成 21 年度に国で実施した「事業仕分け」は、地方自治体でも評価手法の見直しを考える一つの契機にもなっている。



### 疑問

#### 行政評価に対する立案メンバーの“モヤモヤ”

- 流行に乗っただけ？ 評価して何か変わった？ 全事業を評価する必要があるの？  
職員にとっては負担？ 他の業務との連動ってできてるの？  
指標の設定って難しいよね！ 議会は どうする？ ……



### 検証

#### 目的と効果

- ・ 複数の効果を期待して導入
- ・ 目的が多すぎる
- ・ 外部評価実施率が低い
- ・ 同じ評価を繰り返すことでの効果の希薄化

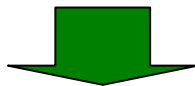
#### 職員の意識

- ・ 計画行政の中で振り返りが苦手
- ・ 評価という新たな業務による、事務量の増加
- ・ 全事業を同じ方法で評価することの難しさ

#### 活用

- ・ 同じような業務が複数存在している（行政評価や予算編成など）
- ・ 評価を行うことが目的となっており、評価結果の活用方法が不明確

#### 職員の負担感



### 提言

- ・ 目的は事務事業の効率化と削減！
- ・ 事務事業に絞った行政評価を！
- ・ 思いきった実施方法の再検討！
- ・ 行政評価の休止や廃止も選択肢の一つ！